

目次

序 説	3
一 特異とは	3
二 「特異」への着眼	4
三 「特異」指摘の興味	4
四 特異なものの実質	5
第一章 感謝の表現に関して	7
一 琉球方言下で	7
1 タンディ ^ガ ー タンディ。	7
2 ダイズ〔i〕ガ ^ー ダイズ〔i〕	8
3 フカラッ ^サ 。	8
4 ボー ^{レー} 。	8
5 ミハイ ^ユ 。	8
6 ニフェ ^ー ド。	9
7 ニフェ ^ー デービル。	9
8 シリガ ^フ 。	10
9 トウトウガ ^ナ シ。	10
10 ミヘ ^{ディ} ロ。	10
11 ウ〔i〕ボラ ^ダ ーニ。〈ウ〔i〕は「オ」にちかい。〉	11
12 オーボラ ^ダ ーニ。〈これの「オ」は単純な「オ」。「ニ」は、音がすこし上がるだけ。〉	11
13 アリゲッ ^サ マ アリョ ^ー ダ。	12
14 ウブ ^{クン} デー ^タ 。	12
二 九州方言下で	13

1	アイガ ^下 モシヤゲ ^モ ス。	13
2	ア ^下 。	13
3	ア ^下 。	14
4	チョ ^下 ジョ。	14
三	中国方言下で	14
1	メン ^下 ダシ。	14
2	ゴネンノ イリマシタ。	15
3	ゴネンニヤ ^下 マシタ。	15
4	タイガ ^下 ター コツテス ^下 ノ ^下 。	15
5	ダンダン ダンダン。	16
6	サイ ^下 サイニ。	16
四	四国方言下で	16
1	オーキニ。	16
2	ダンダン アリガ ^下 ト ゴザイ ^下 マシタ。	17
3	アリガ ^下 ト ^下 ゼ。	18
4	ゴ ^下 ネ イリマシタ。	18
五	近畿方言下で	18
※	オーキニ。	18
1	掃除を手伝ってくれてよしたね	20
六	中部方言下で	20
※	オーキニ。	20
1	オカ ^下 タシケ。	21
2	ゴモ ^下 タイ ^下 ナ ^下 。	22
3	ウタ ^下 テ ^下 コ ^下 ヤ。(ウタ ^下 テ ^下 コ ^下 ヤ。)	22
4	コ ^下 リヤ ^下 ^下 ド ^下 ーモ オシ ^下 ョ ^下 ッ ^下 サ ^下 マ ^下 デ ^下 ゴ ^下 ザ ^下 ンス。	22
5	ゴ ^下 ツ ^下 オ ^下 サ ^下 マ。	22
七	関東方言下で	24

※	オーキニ。	24
六	1 ワル ^下 イ ^下 荼。	24
2	キ ^下 ドク ^下 デ オ ^下 ジャ ^下 ル ^下 ノ ^下 。	24
3	ゴ ^下 ド ^下 ーサ ^下 ヨ ^下 。	25
八	奥羽方言下で	25
※	オーキニ。	25
1	おいだみをおかけした	26
2	オシ ^下 ョ ^下 ーシ ^下 ナ ^下 ナ ^下 シ。	26
3	モ ^下 ツケ ^下 ダ ^下 ノ ^下 。	26
4	カン ^下 ボ ^下 ーエ ^下 。	27
5	おーれにゃなんし(連)〔平鹿郡〕ありがたう。(有難う)	27
九	北海道方言下で	27
第二章	呼びかけの表現に関して	28
はじめに		28
一	感声的な特異短文	28
1	ヨ ^下 ー。ヨ ^下 イ。	28
2	オイ。	29
二	モシ。	30
三	文末詞からのもの	33
四	人代名詞系のもの	35
五	事物代名詞系のもの	36
六	連体詞系のもの	40
七	特定發文	41
八	おわりに	42
第三章	朝のあいさつの表現に関して	43
一	琉球方言下で	43

二 九州方言下で	45
三 中国方言下で	48
四 四国方言下で	48
五 近畿方言下で	49
六 中部方言下で	50
七 関東方言下で	51
八 奥羽方言下で	52
九 北海道方言下で	53
第四章 晩のあいさつの表現に関して	54
一 「バンジマシテ。」など（「晩」という漢語をやどすもの）	54
二 「オ晩。」の類	56
第五章 人の家に行つてのあいさつの表現に関して	59
一 琉球方言下で	59
1 沖縄本島	59
2 〈以下奄美諸島〉与論島	60
3 沖永良部島	61
4 徳之島	61
5 大島本島	61
6 喜界島	62
二 九州方言下で	62
三 中国方言下で	67
四 四国方言下で	68
五 近畿方言下で	69
六 中部方言下で	69
七 関東方言下で	71
八 奥羽方言下で	72

九 北海道方言下で	73
第六章 子どもが店に買い物にはいる時のことば	74
一 「買う。」	74
二 「頂戴。」	76
三 「拝領。」	77
四 「戴く。」関係のもの	77
五 「ご免。」	77
六 「たのむ。」との言いかた	78
七 「申し。」	78
八 「参り候。」	79
第七章 婚礼の宴に招かれてのあいさつの表現に関して	80
第八章 人の来訪を受けてのあいさつの表現に関して	94
第九章 別辞 <small>〈人家辞去のばあいも 途上のばあいも〉</small> の表現に関して	98
第一節 「さよなら。」類以下、修飾語句を独立させたもの	98
一 「サヨーナラ。」類	98
二 「アバ。」類	101
三 「ソッジャ。」(それでは。)	103
四 「そ(ほ)んなら。」	103
五 「マン。」類	104
六 「ま(先)ず。」類	105
七 「ゴセッカク。」類	106
八 「ドーモ。」	106
九 「今 ヨ。」など	106
十 「ただ今。」	108
十一 「のちがた。」類	109
十二 「アッテ。」	109

十三 「やがて。」類	109
十四 「コンドメヤ。」	110
十五 「マタ ヨ。」類	110
第二節 単直動詞類	111
一 「行く」に関するもの	111
二 「去ぬくる」を言うもの	113
三 「もどる」を言うもの	115
四 「まーえー」	115
五 「帰る」を言うもの	115
六 「居ろよ。」	116
七 「いらい」	117
八 「ザットー。」類	118
第三節 名詞形のもの～「お明日。」類～	119
第四節 夜の辞去	121
付節 ていねいな送辞	124
第五節 感謝の思いを述べるもの	130
第六節 恐縮の別辞	131
第七節 鄭重な辞去	134
第十章 応答の表現に関して	137
はしがき	137
一 「はい。」の返事の世界では	137
1 「ナイ。」類	137
2 「ハイ。」類	145
3 「アイ。」類	149
4 「イー。」類	153
5 「へー。」類	155
6 「エー。」類	160

7 「ウ」音関係のもの	163
8 「オー。」類	164
9 「ヤ。」「ヤー。」	169
10 「シイ。」	169
二 単純肯定の慣用応答文	170
三 淡泊な肯定文	178
四 同調する大肯定文	181
五 清明承知の応答文	183
六 恐縮の応答文	183
七 聞き直し文	184
八 不承知表現文	185
九 否定(打消)応答文	186
九' 「いいえ(や)。」類	187
九'' 「ナンモ。」「ベッチャ。」	196
第十一章 説明の表現に関して	201
第一節 卑罵表現文	201
一 ヤガル	201
二 アゲル	208
三 サガル	209
四 サラス	211
五 コク	214
六 アルク	217
七 マワル	217
八 マル	218
九 クサル	219
十 ケ(ゲ)ツ(ヅ)カ(ガ)ル	223

十一	コバル	231
十二	ウセル	232
十三	ウサル	237
十四	ヌカス	238
十五	タレル	241
十六	ホザク	242
十七	ハタス	243
十八	コマス	243
十九	クラウ	246
二十	雑類	246
□	おわりに	249
※	おことわり 感謝	250
第二節	待遇表現法〈敬語法〉のばあい	251
第三節	比喩表現法のばあい	256
第四節	断定表現法のばあい	257
第五節	体言化表現法のばあい	259
第六節	完了表現法のばあい	263
第七節	未来化表現法	266
第八節	可能不可能表現法のばあい	270
第九節	累加的叙述のばあい (動詞のもとでの助辞的表現)	273
第十節	「係り結び」文法のばあい	278
一	琉球方言下の係結法	278
二	九州方言下では	280
三	中国方言下では	283
四	四国方言下では	285
五	近畿方言下では	287

六	中部方言下では	289
七	関東方言下では	293
第十一節	代名詞表現法のばあい	294
第十二節	格助詞表現法のばあい	296
第十三節	接続助詞表現法のばあい	310
第十四節	間投習慣のばあい	313
第十五節	文末詞のばあい	315
第十六節	古語法のばあい	317
1	長句のもの	317
2	動詞	321
3	助動詞	326
4	形容詞	328
5	形容動詞	333
6	名詞	337
第十七節	慣用句法のばあい	344
1	九州地方	344
2	中国地方	348
3	四国地方	353
4	近畿地方	354
5	中部地方	356
6	関東地方	359
7	奥羽地方	360
付一	昔話での慣用文	363
付二	ことば寄せ——この中に慣用句——	363
付三	囃したてることば	364
付四	音相上のこと	366
その一	鼻母音の聞こえるもの	366

x			
	その二	長音の注意されるもの	367
	その三	[o] ≧ [u] の音訛がつよくひびくもの	368
	その四	[b] ≧ [m]・[b] ≧ [w]	369
	第十二章	判断の表現に関して	370
	一	九州方言下で	370
	二	中国方言下で	372
	三	四国方言下で	374
	四	近畿地方	376
	五	中部地方	378
	六	関東地方	380
	七	奥羽地方	381
	第十三章	所懐の表現に関して	384
	一	琉球方言下で	384
	二	九州方言下で	385
	三	中国方言下で	390
	四	四国方言下で	396
	五	近畿方言下で	398
	六	中部方言下で	403
	七	関東方言下で	411
	八	奥羽方言下で	414
	九	北海道方言下で	419
	第十四章	意志の表現に関して	420
	一	九州以南	420
	二	中国	422
	三	四国	422
	四	近畿	424
	五	中部	426
	六	関東	429
	七	奥羽	431
	八	北海道	434
	第十五章	抗弁の表現に関して	435
	一	琉球	435
	二	九州	435
	三	中国	436
	四	四国	438
	五	近畿	440
	六	中部	443
	七	関東	447
	八	奥羽	448
	第十六章	想像の表現に関して	449
	一	琉球	449
	二	九州	449
	三	中国	451
	四	四国	452
	五	近畿	452
	六	中部	453
	七	関東	455
	八	奥羽	457
	第十七章	問尋の表現に関して	458
	一	琉球地方	458
	二	九州	459
	三	中国	462

xii		
四	四国	464
五	近畿	466
六	中部	468
七	関東	470
八	奥羽	472
第十八章	勧誘の表現に関して	475
一	琉球地方	475
二	九州	475
三	中国	476
四	四国	477
五	近畿	478
六	中部	479
七	関東	482
八	奥羽	482
第十九章	命令の表現に関して	484
一	琉球地方	484
二	九州	485
三	中国	488
四	四国	489
五	近畿	491
六	中部	492
七	関東	495
八	奥羽	496
九	北海道	498
回	卑罵の命令表現	498
▽	『喜界島方言集』	498
▽	九州	499
▽	中国	499
▽	四国	500
▽	近畿	500
▽	中部	500
▽	関東	501
▽	奥羽	502
▽	北海道	502
第二十章	勧奨の表現に関して——〈ていねいな命令〉——	503
一	琉球地方	503
二	九州	503
三	中国	504
四	四国	506
五	近畿	507
六	中部	510
七	関東	512
八	奥羽	515
九	北海道	520
第二十一章	依頼の表現に関して	521
一	琉球地方	521
二	九州	521
三	中国	522
四	四国	523
五	近畿	524
六	中部	525
七	関東	528

「特異」とされるものに、日本語表現法の、わかりやすい真実（ふだん着の常道）があるとも言えよう。

特異表現法をよいつっかえ棒とした表現法全体像が、自由日本語の表現世界である。——方言の世界が、特異表現法を以て、日本語表現法の自在性をよく見せている。

※ ※ ※

「特異」表現法に対して、私は言いたい。

咲けよ 野の花 !!
輝けよ 山の花 !!

以下では、私は、野・山のこの花々を、たのしく写生して行きたい。

（これが、日本語の歴史的現実の、一つの特色ある叙述になれば、と思う。）

第一章 感謝の表現に関して

一 琉球方言下で

1 タンディガー タンディ。

当地方でもなかならず特異の部類に属するものかと思われるものに、宮古諸島内の、

○タンディガー タンディ。

がある。私は、旧時早く、宮古島平良市の大山高春氏からこれを教示された。

「もっとも手厚く感謝を表明する時には？」との私の問いに対しては、

○タンディガアー タンディ。

と言うのだ、とのお答えがあった。「ガアー」の所が、のように言われ、のどの奥から出された声が、謙虚な情感のこめられたものであった。

のち、高橋俊三氏の教えを乞うたところ、氏は、“八重山の与那国では、「タンディ」は「お願いします。」という意味しかありません。”と言われた。

今回、あらたに氏に教えを乞うたところ、下記のようなご教示があった。

「タンディガー タンディ。」での「ガー」は、強調用の特別のもの。「タンディ」は動詞の連用形。（タンディユン＝お願いする）動詞連用形が重ねかけられている。（「タンディ」が名詞化していると見てよい。）

宮古諸島では、「高いなあ。」も、「タカー タカ。」とある。形容詞（の名詞形）の重複である。

宮古諸島で、「タンディー。」（ありがとう。）もおこなわれている。——気やすいことばづかいである。

与論島ご出身の町博光氏は、“与論島には、「タンディガー タンディ。」が